

その29 田口

(平成11年5月1日号—第200号)

枚方市駅北口から長尾方面行きのバスに乗り、中宮、須山町を過ぎると、田畑の中の集落を取り囲むように新興住宅が建っている一角があります。そこが、今回紹介する田口です。

田ノ口^{*1}のバス停におり立つと、その南側の小さな生け垣に囲まれた所に、「仁明[にんみょう]天皇外祖母贈正一位田口氏之墓」と刻まれた石碑が立っています。この石碑は、8～9世紀に生きた田口姫の墓で、彼女は仁明天皇(810～50)の外祖母として正一位を贈られ、田口小山墓に葬られたと言われています。



その墓は、かつては今以上に大きく、立派なものだったと伝えられています。田口の地名は、この田口氏に由来しています。

49 田口氏墓(田口3丁目)

もう一つ、この地の歴史を語る際に言われるものに「田口城」があります。この城は、和田正光という人が正平8年(文和2年)(1353)に築いたと『喜多氏系図』に記されており、小字城ノ山と言われた所が田口城の城跡であると伝えられています。また、城門に使われたという唐居敷[からいしき]が、田口の山田神社の境内に残されています。このように、古代から中世にかけて、田口は大いに脚光を浴びていました。



50 山田神社(田口1丁目)勸請縄

ところで、山田神社では毎年12月25日ごろに、伝統の勸請縄[かんじょうなわ]がつるされます。この儀式は、田口・出屋敷の10組が年番制で担当し、8間(約15メートル)の長いしめ縄をつくり、神社に祀っている天神さんの縁日に奉納します。その奉納では、村人が勸請縄を担ぎ、村中を伊勢音頭を歌いながらねり歩き、酒を酌み交わします。しかし、最近は交通事情等もあり、ねり歩きをしない組もあるそうです。

この田口には、いまだ田園風景が見られますが、市のごみ処理施設もあります。現在、枚方市全域から集められたごみは、田口地域にある穂谷川清掃工場で焼却処分されています。しかし、大量に発生するごみに処理が追いつかない状態の上、施設は老朽化しているため、本市は第2清掃工場の早期建設をめざしています^{*2}。

このように歴史と伝統が残っている反面、本市の難しい問題も抱えている田口。歴史の先人たちは、今の田口をどんな目で見つめているでしょう。

^{*1} 地元では「たのくち」と呼びならわしており、江戸時代の文書にも「田ノ口」「田の口」と表記されていることが多い。昭和49年から大字田口に住居表示が施行され、読みは「たぐち」とされたが、それ以前から設けられているバス停の名称は、従来の「田ノ口」である。

^{*2} 東部地区で建設中、平成20年度稼働予定。